

コスタリカ経済定期報告(2025 年 2 月)

2025 年 4 月

在コスタリカ日本大使館 経済班

※出典:コスタリカ中央銀行(BCCR)、財務省、貿易省(COMEX) 及び貿易振興機構(PROCOMER)。主な出来事については当地新聞記事¹⁾による。

1 主要経済指標

	2024 年	2025 年		
		1 月	2 月	3 月
累積輸出総額 FOB(100 万ドル)	19,900.4	1,459.4	3,264.5	
累積輸入総額 CIF(100 万ドル)	23,662.9	2,031.2	3,981.8	
貿易収支(100 万ドル)	▲3,762.6	▲571.9	▲717.4	
財政収支対 GDP 比(%)	▲3.77	NA	NA	
消費者物価指数(CPI:2020 年 12 月を 100 とする)	110.39	110.79	110.77	
為替(通貨はコロン・1 米ドルあたり中値・月末値)	512.73	510.66	508.72	
政策金利(%) (年末・月末)	4.00	4.00	4.00	
基本預金金利(%) (年末・月末)	4.13	4.09	4.08	
外貨準備高(100 万ドル) (年末・月末)	14,170.6	14,458.0	14,575.3	

2 財務省の電力インフラ事業のためのIDB融資枠の承認

(1) 2月4日、国家電力インフラ強化のためにより多くの財源を確保するために、当国財務省は、米州開発銀行 (IDB) からの2億ドルの融資枠計画を承認した。

(2) マルコ・アクーニャ・コスタリカ電力公社 (ICE) 総裁は、「財務省の承認により、IDBの融資のもと、国内の電力供給インフラの強化に向けた取り組みを進めることが出来る。後は、ICEの技術チームが協力し、最適かつ競争力のあるインフラ計画を立てるだろう」と述べた。

(3) ハビエル・ウラIDB代表は、「当行は、電力インフラの近代化を支援することで、コスタリカの経済及び持続可能な開発に貢献したい。我々の融資プログラムを通じて、再生可能エネルギーへの転換及び効率的な送電・配電網の拡大を促進していく。更に、我々は、安全で利用しやすく持続可能な電力供給のために、新たな課題やエネルギー需要の高まりに直面する電力セクターを強靱化する」と述べた。

(4) 今回の融資により、ボリンケン、ラスパイラスII等の地熱発電所やラ・ガリータ水力発電所の近代化、送電、及び配電設備などの建設プロジェクトが今後進められるだろう。

¹⁾ ラ・ナシオン紙、エル・ディアリオ・エクストラ紙、ラ・レプブリカ紙、エル・フィナンシエロ紙等

3 トバール貿易大臣のルビオ米国務長官の訪問に関する発言(経済関係):

(1) 2月5日付当地主要紙「ラ・ナシオン」は、4日のルビオ米国務長官との閣僚会談でのコスタリカ・米国の経済関係に関する議論について、トバール貿易大臣との質疑応答の内容を掲載した。

(2) 我々(ラ・ナシオン紙)は、UAEと欧州への外遊直前のトバール貿易大臣に、今回のルビオ米国務長官との会談結果について質問した。

(質問) ルビオ長官は、コスタリカとの通商関係についてどのような発言をしたか。

(回答) 同長官の滞在期間は短かったが、実り多く、会談内容は前向きなものであった。通商分野については特段の問題もなく、我々が期待していた通りであった。

米国は、自国の国家安全保障上また経済的繁栄にとってパートナーであり、戦略的同盟国として、コスタリカを認識している。また、彼らは、コスタリカの投資誘致とその成功を理解している。なお、その成功には、雇用創出のみならず、貿易ルールの尊重という観点も含まれる。

(質問) DR-CAFTA について言及はあったか。

(回答) 今回は議論しなかった。

(質問) 米国がメキシコとカナダに関税を課した場合、コスタリカにとって好機となると考えているか。

(回答) 高関税が課されるに拘わらず、コスタリカはこれまで通りに、自国を投資先として、海外に発信し続けていく。何も変わることはない。

今回のルビオ長官の訪問により、コスタリカが取り組んできたことは正しいと確認でき、今後もその方針を継続していくつもりである。経済的な観点から懸念が生じるような事態はない。今回の会合は、コスタリカの利益、経済及び商業の観点からは非常に良いものとなった。

(質問) バイデン前政権が取り組んだ「CHIP 法」と「経済繁栄のための米州パートナーシップ(APEP)」については話し合われたか。それとも、トランプ政権で立ち上げられた「America Crece」イニシアティブの推進の可能性について言及されたか。

(回答) 協議すべき議題が多く、今回の会談では全てを話すことができなかった。APEP に関しては、米国がその継続性と別のイニシアティブの立ち上げの可能性について検討していると推測するが、先方政府が決定することである。今後は不透明であるが、ルビオ長官の訪問は、トランプ政権が米州に強い関心を寄せていることを示している。同長官の最初の外遊先が中米であったという事実は、コス

タリカにとって重要であり、我が国が戦略的パートナーとして認識されているという証である。

(質問) コスタリカは今後も米国に対するロビー活動を維持するか。

(回答) もちろんである。アンドレ外相や自分（トバール貿易大臣）も含め、当国政府閣僚はロビー活動を続けていく。我々はワシントンを訪問する予定であるが、米議会上院の閣僚承認を待っている。自分の場合、ラトニック商務長官およびグリア米通商代表（USTR）の承認を待つ必要がある。我々は、米国におけるコスタリカの存在感を強化するつもりである。様々な方法を検討しているが、閣僚や大統領のロビー活動に優るものはない。

4 当国閣僚等のトランプ政権下での対米経済関係に関する発言

（１）２月５日、ディアリオ・エクストラ紙は、アンドレ外務大臣に対し、「トランプ政権の米国第一主義がコスタリカの貿易取引に及ぼす影響」について尋ねた。同大臣は、「影響はないと考えている。なぜなら、安全な国々とのサプライチェーンを確保することが米国の戦略の一部であり、コスタリカはこれまで成功を収めてきた。我々政府は、コスタリカと米国は Win-Win の関係にあると考えている」と述べた。

（２）米国での政権交代後、外国企業が北米への投資再開を検討している。トランプ新大統領の政策が、コスタリカの産業に与える影響について、当国内で多くの議論が交わされてきた。バイデン政権下では、コスタリカは世界大国（米国）と非常に密接な関係にあった。コスタリカは、テクノロジー産業の発展のために重要なパートナーとなり、サイバーセキュリティに関する同盟や協定を結び、米国の国益のための戦略的拠点として位置付けられるようになった。

（３）米国商務省国際貿易局のデジタルプラットフォームによると、２０２３年のコスタリカの米国向けの主な輸入品は、医療機器および半導体であった。同品目は、同年のコスタリカの対米輸入総額の５４．６％を占めていた。コスタリカ貿易省（COMEX）は、米国の支援を受けながら、自国を「ラテンアメリカのシリコンバレー」に変えるという目標に重点的に取り組んでいる。

（４）トバール貿易大臣は、米国新政権の政策転換にもかかわらず、両国の良好な関係が維持することを望むと強調した。

5 コスタリカの対米輸出入取引額の増加

（１）コスタリカ中央銀行（BCCR）の統計によれば、コスタリカの対米輸出は、２００９年から現在に至るまで２１７％も増加している。米国・中米・ドミニカ共和国自由貿易協定（CAFTA-DR）により減税の恩恵がもたらされ、医療機器およびパイ

ナップルやバナナなどの農産物が主要輸出品目となっている。同国の対米輸入額も、131%も増加しており、両国の経済的統合を表している。

(2) コスタリカ貿易会議所 (CRECEX) のホセ・アントニオ会長は、「これらの数字は、企業にとっては非常に心強いものであり、生産の拡大と雇用創出を生み出していると言える。しかし、(2025 年 1 月 1 日より適応される) 関税撤廃により、コスタリカ政府と企業関係者は、絶えず変化する市場での競争力を維持するために、インフラの近代化と人的資本の育成に重点的に取り組む必要がある」と述べた。

また、同会長は、「関税の完全廃止は、コスタリカと米国の通商関係におけるマイルストーンであると同時に、厳しい世界情勢の中で、コスタリカの更なる経済成長のための次の段階に向けた議論の始まりである」と付言した。

(3) アントニオ会長は、「トランプ米大統領の関税政策を常に注視し、条約の安定性や二国間貿易のルールに如何に影響を与えるかどうかを見極める必要がある」と説明した。トランプ氏は、大統領就任時に、メキシコとカナダに対する関税を引き上げると発表したが、両国が国境警備を強化する措置を講じることにより同意したため、引き上げを 1 か月延期することになっている。

6 コスタリカの対 EU 輸出取引額の増加

(1) 医療機器

ア EU は、米国に次いでコスタリカの輸出先第 2 位となっている。コスタリカ貿易振興機構 (Procomer) によれば、昨年、EU との輸出取引額は 3 億 9 千 4 万 8 千 0 百ドルとなり、中でも医療機器はそのうちの 45% を占めた。

イ 医療用針やカテーテル、カニューレや類似器具がトップで、総額の 20% に相当する 7 億 8 千 8 百 0 万ドルであった。医療用人工器官は総額の 12% を占め、その他の医療器具 (11%)、電気診断装置 (2%)、ストーマ用品 (1%) と続いた。EU 内での主な輸出先は、輸出量の 43% を占めるオランダ、次いでベルギー (25%)、スペイン (7%)、英国 (6%)、イタリア (5%)、ドイツ (4%) となった。

(3) コスタリカ輸出業者会議所 (CADEXCO) は、EU をコスタリカにとって (2 年連続で) 2 番目に大きな貿易相手先であり、EU が当国の輸出総額の 20% を占めていることから、コスタリカの経済成長の鍵を握ると認識している。

(2) 青果物

医療機器に加え、バナナが対 EU 輸出品目の第 2 位となり、輸出総額の 16% を占めた。続いて、パイナップル (16%)、生コーヒー豆 (4%)、パームオイル (3%)、果汁および濃縮果汁 (3%) であった。

（３）その他

ア CADEXCO は、対 EU 輸出額の増加は、２０１３年から発効した中米 EU 連携協定（AACUE）が影響していると述べた。同協定により、昨年末までコスタリカの対 EU 輸出額を伸ばすことが出来た。更に、高付加価値製品や品質認証付き農産物の供給強化が同増額の一因となっている。コスタリカ大学（UCR）のロジスティックスの専門家であるエデル・ビジャロボス教授は、EU 向け医療機器の輸出増は、当国の同産業の強化政策に呼応しており、欧州市場においても重要な商品となってきていると説明した。

イ EU の対中米輸出は、食品及び化学・製薬産業に集中している。２０２４年には、中米への輸出額は３６億４，９９０万ドルに達した。コスタリカ貿易会議所（CRECEX）は、EU はコスタリカの輸出入セクターにとって重要な戦略的市場であり、AACUE は市場及び製品の多様化を促進していると強調した。現在、欧州におけるコスタリカのポジショニングは、フリーゾーン体制下での先端技術産業での高い優位性と農産物の輸出により、確立されている。

（了）